

国際共同研究分野

Division of International Cooperative Researches

客員教授	Rungpetch C. Sakulbumrungsil	Professor	Rungpetch C. Sakulbumrungsil (Ph.D)
------	------------------------------	-----------	-------------------------------------

◇研究目的及び概要

目覚ましい発展を遂げた現代西洋医学においても治療に難渋する疾患が多く、天然物を活用した伝統医学に関する研究成果や臨床効果に期待が寄せられている。伝統医学に関わる研究を高い水準で維持・発展させるためには、最新の研究方法論や天然物に関する情報交換が必要である。和漢医薬学総合研究所は天然物の研究を発展させるために、3カ国・4機関との間に国際共同研究拠点（ICCO）を形成するとともに、7カ国・10機関と部局間協定を締結している。

そこで、民族薬物研究センター国際共同研究分野は、各国の大学及び研究機関の研究者と連携して、伝統医学と現代医学を融合した国際共同研究を促進することを目的に、(1) タイ・チュラロンコン大学薬学部や中国・北京大学医学部薬学院との国際共同研究拠点を通じた国際共同研究の推進、(2) 大学間や部局間協定締結機関とのジョイントシンポジウム、学生交流を通じた国際共同研究の維持・発展を図っている。

◇原著論文

- 1) Thongprasert S., Crawford B., Sakulbumrungsil R., Chaiyakunapruk N., Petcharapiruch S., Leartsakulpanitch J., Permsuwan U.: Willingness to pay for lung cancer treatment: Patient versus general public values. *Int. J. Technol. Assess. Health Care*. 2015 Jan;31(4):264-70. doi: 10.1017/S0266462315000409. Epub 2015 Sep 10.

◇活動事業実績

北京大学薬学院との共同研究拠点事業

和漢医薬学総合研究所は北京大学医学部と2005年に「薬用資源研究における国際協力拠点設置に関する協定」を結び、双方に International Cooperative Center Office (ICCO) を設けた。その後2010年に再締結し、ICCOを拠点として学術交流を行っている。以下に2015年度の活動実績を列記する。

1) 学術交流

- ・2015年10月1日：薬学院の蔡少青教授は富山大学3大学統合10周年記念行事に招へいされ、「世界の将来を担う人材をいかに育てるか」と題して記念講演を行った。
- ・2015年10月2日：蔡少青教授は和漢研セミナーで「中国の薬用資源とその有効利用について」と題して講演を行った。
- ・2015年4月14日～15日：和漢医薬学総合研究所生薬資源科学分野の當銘一文准教授が北京大学薬学院を訪問し、「Screening study of Bioactive Natural Products that Affect on Wnt

Signaling」と題して講演を行った。

- ・2016年3月9日～10日：和漢医薬学総合研究所天然物化学分野の伊藤卓也准教授が北京大学薬学院を訪問し、「Biologically active compounds from microorganisms: Isolation and biosynthesis」と題して講演を行った。

2) 合同調査

- ・2015年9月18日～22日：小松かつ子教授、當銘一文准教授（生薬資源科学分野）及び蔡少青教授（北京大学薬学院）が四川省で、秦艽の資源調査を実施した。

（文責：小松 かつ子）

チュラロンコン大学薬学部との共同研究拠点事業

和漢医薬学総合研究所はチュラロンコン大学薬学部と2010年に、双方に International Cooperative Center (ICC) を設置する覚書を締結し、ICC を拠点として学術交流を行っている。以下に2015年度の活動実績を列記する。

1) 学術交流

- ・2015年11月27日～28日：和漢医薬学総合研究所消化管生理学分野の門脇真教授がチュラロンコン大学薬学部を訪問し、今後の学術交流についての協議を行った。
- ・2016年3月10日～11日：和漢医薬学総合研究所病態性化学分野の濟木育夫教授、天然物化学分野の森田洋行教授がチュラロンコン大学薬学部を訪問し、「32nd International Annual Meeting in Pharmaceutical Sciences」に出席及び発表を行った。